

SSKS

VOL.124

結の実通信124号

特定非営利活動法人結の実

2020年最初の結の実通信となります。明けましてというには、遅いですが本年もよろしくお願い致します。

さて、インターネットの記事の中には「AIの時代でも生き残る職業ランキング」や「これから給料の上がる職業ランキング」など様々な未来予測があります。最近読んだ記事の中で、将来性のある職業に障がい者グループホーム職員が入っていました。もちろん書いた方の主観もあるのですが、グループホームに従事するものとしてその理由を考えてみることにします。

同じく人間を相手にする職業の中でも、医師や介護に関しては、AIによる診断の効率化や、介護ロボットの普及など考えられますが、グループホーム職員は、入居者の生活にかかわる様々な課題解決が仕事となり、それは機械では代替が難しいものが多いです。例えば、入居者の中には「行動停止」という状態になる人がいます。わかりやすく言うと、何かのきっかけで動けなくなってしまう状態です。動けなくなる理由も再び動き出すきっかけも人それぞれなのですが、その場で人間対人間の向き合った支援が必要になってきます。そこには日ごろからの入居者に対する理解や経験、「もしかしたら〇〇の理由で動けないのでは」という発想が必要です。

このように、入居者の様々な課題に取り組んでいくのは、大変やりがいのある仕事であり、人間力が問われる部分が多いです。だからこそ、この仕事に様々な方が関わっていただければと考えています。一方で、夜勤など長時間の労働が必要になることや、世

間の休日に出勤しなければいけないことなど、現在の働きやすさを求める環境の中では、なかなか就労希望者を見つけるのが困難な状態です（前回の通信でもとりあげていましたが）。

上記の課題を解決するために、ここ数年まな、ゆいともに、様々なことを見直してきました。入居者支援において我々にできること、できないことをはっきりさせて関係者に伝えていくこと（今までは無理をしていた面がありました）。マニュアルを整備し誰でも同じ支援ができるようにしていくこと（入居者が安心して支援を受けられる環境作り）。職員が働きやすい環境をつくり、持続可能なシステムを作り上げること（職員がここで働きたいと思えるような職場作り）。業務内容を見直し、効率よい支援ができるようにしていくこと（代替可能な業務は代替を行い職員の負担を減らしていく）。新しい事業展開をする前に、まずは、足元を固めようと現在も進めているところです。この試みがある程度達成できたところで、次の結の実の経営戦略が描けると考えております。

今がまな、ゆいにとって正念場であると思います。今変えなければと強い意志をもって取り組んでいるところです。入居者にとっても、職員にとっても将来性のある魅力あるホームと思って頂けるようにしていかなければと重責を感じております。

追伸

「行動停止」の話を出しましたが、これは、障がい者に限ってのものではないと思っています。私の息子たちも、よく行動停止しています。立ち止まることも時には必要なのだなと思います。昔はそれを見てイライラしていた自分がいました（早く動きなさいと）。今は少しだけ余裕をもって見ていられるようになったかなと感じています。何か必要があって止まっているのだなと思えるようになってきました。

管理者 小林輝彦

法人目的

結の実は地域の障害がある人々や子どもたち、高齢者などに対して、必要とする福祉サービス等を提供し、社会的・経済的自立を支援するとともに、社会参加促進に関する事業を行い、障害の種類・程度に関わらず、すべての人々がゆたかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与することを目的としています。

グループホーム運営方針

- ① 障がいの程度にかかわらず、入居者が健康で自立した生活が営めるように支援を行なう。
- ② 入居者の個性を理解し、それぞれの入居者が今まで営んできた生活環境を尊重した支援を行なう。
- ③ 入居者の人権を擁護し、就労や社会参加等充実した社会生活が送れるように、関係施設や地域と連携していく。

法人沿革

- 1988年9月 課外グループ「生活ホーム結」設立
- 1991年4月 通所訓練の場「通所施設・結」開所
- 1994年7月 宿泊訓練「生活ホーム・結」開始
- 2001年9月 「特定非営利活動法人 結の実」認可
- 2004年4月 男性ホーム「ホーム・まな」を開所
- 2008年3月 女性ホーム「ホーム・ゆい」を開所

「いろんな表情」

ホーム・まなとホーム・ゆいで生活している入居者は毎日いろんな表情を見せてくれます。「笑ったり」「うれしそう」そんな表情をしている姿を見ると、支援者も笑顔になれたり、うれしくなったりします。

「少し眠そうな様子」声をかけても「反応が普段よりゆっくり」そんなときには疲れているのかな？大丈夫かな？と心配になったりします。

「困っている様子」や「怒っていたり」すると何に困っているのかな？何に怒っているのかな？と原因を一緒に探ります。原因がわかり改善することで、入居者がいつものような笑顔を見せてくれることがあります。



時には「発熱をしたり」と調子を崩すこともあります。そんなときにはいつもの元気な様子とは違い、「辛そうにしていたり」「起きれず眠っている」そんな表情が見られます。病院に行き処置をしてもらい、ホーム内で安静にして回復に専念をしますが…体温が39℃だと自室で眠っていたのに、少し下がり37℃となると、ちょっと普段通りに動き、回復に時間がかかったり…（笑）

身体のどこかが痛くなってもうまく伝えることが出来ずに…「顔をしかめていたり」「なにかを伝えようとしている」そんな表情も見られます。

入居者がいろんな表情を見せてくれる毎日の中で、ふと研修で学んだ課題を思い出すことがあります。「言葉やジェスチャー以外の手段で相手に自分の意思を伝えてみましょう」…とても難しいと感じた課題でした。

表情を使って入居者は様々な情報を発信しています。明日はどんな表情を見せてくれるでしょうか？楽しみです♪

会員入会と寄付のお願い

特定非営利活動法人結の実の法人理念や事業運営方針の趣旨にご賛同いただき、ご支援して下さる方々の入会及び寄付をお願い申し上げます。

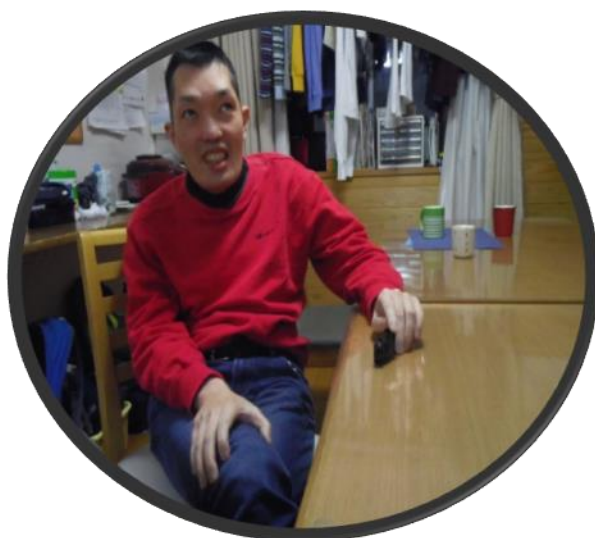
年会費 2000円

郵便振替口座 00110-2-355729

口座名義

特定非営利活動法人結の実

- * 郵便振替用紙に、お名前・住所・電話番号・〇〇年度会費として、のご記入をお願いします。
- * 入会時期に関わらず、会員資格は年度ごとの更新となります。



寄付 2名 （2019年9月24日～2020年2月14日）

明滝光子 藤田浩子

2019年度 更新会員 70名 （2019年9月24日～2020年2月14日）

伊藤啓子 岩浅和美 岩浅義昭 清水千加子

（順不同・敬称略）

☆ご支援まことにありがとうございました☆

事務局からのお知らせ

- ☆ 2019年度第3回理事会が8月24日に開催されました。
- ①2019年度4月～6月会計報告について
 - ②結の実理事長・副理事長選任について
 - ③人事考課制度導入と働き方改革に伴う就業規則変更について
- ①の議題に関して承認されました。
②の議題に関して、理事長に難波英勝理事、副理事長に市村たづ子理事とすることが承認されました。
③の議題に関して継続審議となりました。
- ☆ 2019年度第4回理事会が11月23日に開催されました。
- ①2019年度上半期会計報告・第1次補正予算案について
 - ②まな債権一括返済について
 - ③就業規則変更について
- ①の議題に関して承認されました。
②の議題に関して承認されました。
③の議題に関して承認されました。

結の実通信 124号

『編集』特定非営利活動法人結の実 事務局

〒194-0046 東京都町田市西成瀬 1-39-13

TEL/FAX : 042-725-8693

E-mail : yuinomi@star.ocn.ne.jp

ホームページ <http://yuinomi.com>

『発行』特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

TEL : 03-6277-9611 FAX : 03-6277-9555 定価 50円